

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集担当者 大場雅信
購読料 一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

「第8回子どもと教育を考えるつどい」開催

障害のある子どももよりよい教育環境を！

2月17日(日)、子どもと教育の未来をひらく長崎県民の会(高教組、高退教、私教連、新婦人、県労連、登校拒否を考慮する親の会など)23団体で構成)は、「第8回子どもと教育を考えるつどい」を諫早市社会福祉会館で開催しました。参加者は41人、うち高教組からは26人が参加しました。この「つどい」は、長崎県の抱える教育課題を明らかにし民主的教育を

推進していくことを目的に、高校生、父母、教職員、地域住民が参加し、教育について学習するとともにお互いの教育についての思いを交流する場として開催されています。今年度は「障害のある子どもによりよい教育環境を」をテーマに、長崎高教組障教部部長石橋聡子さんの報告「長崎の特別支援教育の現状と課題」、島原特別支援学校南串山分教室「親の会」

宮野喜代さんと甲田裕さんの報告「島原特別支援学校高等部教室設置運動」を聴きました。

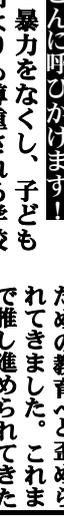
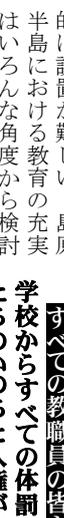
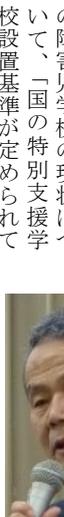
特別支援学校設置基準の創設を！

また、島原特別支援学校南串山分教室「親の会」代表宮野喜代さんは、島原特別支援学校高等部設置運動のこれまでの経過について、「電車バスの乗り継ぎは障害のある子どもにとって限界があります。知らない人について

また、島原特別支援学校南串山分教室「親の会」代表宮野喜代さんは、島原特別支援学校高等部設置運動のこれまでの経過について、「電車バスの乗り継ぎは障害のある子どもにとって限界があります。知らない人について

また、島原特別支援学校南串山分教室「親の会」代表宮野喜代さんは、島原特別支援学校高等部設置運動のこれまでの経過について、「電車バスの乗り継ぎは障害のある子どもにとって限界があります。知らない人について

また、島原特別支援学校南串山分教室「親の会」代表宮野喜代さんは、島原特別支援学校高等部設置運動のこれまでの経過について、「電車バスの乗り継ぎは障害のある子どもにとって限界があります。知らない人について



石橋さんは、長崎県下の障害児学校の現状について、「国の特別支援学校設置基準が定められていないために、一つの学校に障害児があふれているような状況、教室の老朽化、教室不足等、教育条件に不備があります。また、障害の多様化・重度化に対応することがきわめて難しい状態です。この現状は、教職員の多忙化につながっており、障害特性を無視した教職員の配置、現業職員等の民間委託など特別支援学校の教育をますます困難な状況に陥れています。今私たちの願いは、障害特性を配慮した教育の専門性、教科指導上での教

育の専門性を重視し、子どもたちの教育環境という視点で特別支援学校の

算を増やす運動に協力したい」「教育を受ける権利は人生を決定する最も重要なもので、経済的問題で切り捨てられない。分教室をつくる運動に関わってほしい」と訴えました。

「孫が障害児、これから先、小学校、中学校、高校と見守っていききたい。多くの人が今日の話しを聞いていきます。南串山分教室でこのような運動があつてほしいことを知らなかった。個人的にも、高教組としても協力していきたい」「特別支援コーディネーターをしているが、私自身も特別支援教育の

「南串山分教室高等部設置を求め署名」2万570筆を県教委に提出

「特別支援教育への理解を上げよう」

「競争と監視」の教育政策のもとで「人格の完成」を目的とする教育は「人材育成」のための教育へと歪められてきました。これまでに推し進められてきた「教育改革」路線を見直していくことが必要です。

子ども自らの自己変容による成長を見守り援助することこそ大切にされるべきです。

第214回定期中央委員会 討論

超勤縮減問題 について



長崎支部 峰中央委員

県教委が出した「働きやすい職場づくりプラスワン運動」について発言する。第一に、プラスワンという名称が悪い。逆に超勤を増やすかのような印象を受ける。そもそも県教委はこれまで超勤縮減に本当にとりこんできたのか。この提案には成果主義が見え隠れするように思う。

長崎工業では、全職員にいろいろな仕事をあげさせるアンケートを採り、職員会議でその中から超勤縮減のためのとりくみを決定した。このようなことは珍しいことだ。しかし、職場では、分掌・教科で何かを減らそうとするのは難しい。また、管理職の職場での対応状況を考えたらプラスワンは縮減がすすむかどうかどうかは疑わしい。だから組合でこのとりくみを検証することは必要だ。

大村支部 宅島中央委員



職場で、「プラスワン

佐世保支部 井野口中央委員



オスブレイ配備の反対運動について発言する。沖繩に行く機会があったので普天間基地を見に行つた。多くの人が丘の上の公園から監視していた。オスブレイが10機並んでいたが、前日に2機が普天間から移動したとのことだった。普天間基地のそばには幼稚園、大学の基地があることは極めて問題がある。

平和民主主義・憲法問題について



島原支部 田中央委員

大学時代沖繩で過ごしたが、大学のすぐそばに米軍基地があった。その時期に沖繩国際大学に米軍機が墜落したがひどい状況だった。今年度末に沖繩に行き、当時の知り合いと話す機会を持てた。オスブレイの問題では、高校生も「NOオスブレイ集合」に参加しているという話があった。北朝鮮のミサイルの問題にも話がおよんだ。基地近くの県道沿いではオスブレイ反対の座り込みがおこなわれていた。沖繩の米軍基地の問題を広く訴えることは必要だ。

憲法改悪問題で発言する。テロを契機に自衛隊の海外派兵を容認することが国会で取りざたされているが、この問題は、立場を変えれば軍事力の行使と考えられる。憲法があることでこのような軍事的行動が日本では禁じられているといえる。このことが大切であつて、自衛隊の海外での軍事行動を決して許してはならないと思う。しかし、今の政治状況では軍事行動容認に動く危険性がある。このような危険な動きを阻止するとりくみのためにも、憲法問題の資料がほしい。

組織強化・支部のとりくみなど

島原支部 釣船中央委員



島原支部での平和行進・平和のゆうべのとりくみについて発言する。島原支部の平和行進では、島原半島を歩き、島原地区の各市役所に要請行動をおこなっている。夏のとりくみで大変なので、2回に分けてとりくんだ。

例年、島原市、南島原市で核兵器廃絶の署名要請の際、寄付をもらつていたが、今年度は雲仙市でも助役から寄付をいた

北松支部 平湯中央委員



職場の事務補助職員から印刷室が寒いという訴えがあった。早速校長交渉をして、暖房器具を備え付けてもらった。事務補助の方からはお礼を言われた。また、非常勤職員の手当についても、昨年度の授業中の避難訓練では手当が出ないことの問題があったので交渉し、今年度は手当が付くようになった。

だいた。また、例年通り中央公園で映画上映にもとりくんだ。これからも参加者が増えるよう工夫してとりくんでいきたい。

全教共済臨時総代会より

2月22日(金)、全教会館で、第41回臨時総代会が開催されました。長崎高教組からは2人参加しました。

総代会では、今年度の加入促進のとりくみの総括など全国のとりくみが報告されました。

総合共済では、他の多くの組織が昨年度末の現勢を回復し増勢に転じている報告がなされる中で、長崎では、総合共済拡大のとりくみが不十分であったことを大きな反省点としています。

2013年度の大きな飛躍を展望したいです。

大村支部 中島中央委員



大村支部では、6年前まで互助レクをおこなっていた。共済のレクは現在もおこなっており、今年度はバレー大会をおこなったが、共済は球技のみしかおこなえないので、支部の中からは球技以外のレク、以前おこなっていた駅伝大会の復活を望む声が多かった。

今年度 支部会議で検討し、復活させることになり、支部主催で駅伝大会を行うことになった。また、支部の行事では、バス旅行で福岡で開催さ

長崎県春闘共闘2013 討論集会、公務・民間の労働組合、民主団体との連帯を確認!

2月2日、3日、長崎県春闘共闘会議は、式見ハイソで2013春闘討論集会を開催しました。参加者は両日で55人。高教組からは7人が参加しました。

この春闘討論集会は、例年、1月中旬から2月上旬の間におこなわれていきます。全労連本部から講師をお願いし、春闘の状況、課題についての報告を聴き、分教会に分かれてそれぞれの組合の

高教組の参加者からは「公務員への賃下げ攻撃は、民間を含めた日本の労働者の賃金引き下げにつながる」という指摘が複数ありました。この攻撃を阻止するために民間との連携、地域住民への訴えかけをいっそう強めることが重要だ」といった感想がありました。

分教会では、民間の労働組合の今年度の春闘のたたかい、7・8%の賃上げが強行された国家公務員労働組合のとりくみなどが生々しく語られ、2013年春闘を連帯して闘い抜くことが確認されました。

▲春闘討論集会での大黒作治全労連議長の講演



おり、支部主催のこれらも見学した。どちらの行事も未組合員が参加して拡大につなげたい。